

日 月 参 年 二 拾 千 二 式



# 毛ノ木

症候群

毛ノ木

第肆号



モノオトと藍糸

—アオイイト—で結ばれた……

二〇一二年二月二五日。この日、私たちは



2012.2.25 モノオト初ワンマンライブ  
「**藍糸—アオイイト—**」  
～藍色に溶ける月夜の宴～

2012年2月25日、高田馬場のESPミュージカルアカデミー11号館にて、モノオト初のワンマンライブとなる「藍糸—アオイイト—～藍色に溶ける月夜の宴～」が行われた。

今日、数々の活躍を見せたモノオトの集大成ともいえるこのライブ。朝から降っていた雨は開場前にはあがり、雨に冷やされた冷たい風も、この記念すべき日を祝福するようにそよいでいた。

今回はそのライブの様子を、レポートにてお伝えする。



開演間際の会場は後ろの方までたくさんの観客に溢れており、早くも熱を持った会場の雰囲気、会場内の全員が今回のライブに期待を寄せている様子が伺えた。

開演時間を少し過ぎたころ、静まり返る会場に心臓の鼓動のような重低音が響き、メンバーが入場。会場の期待感が一気に高まる。そのままオープニング曲「空白—くうはく—」へと続き、短い時間で会場内をモノオトの世界へと導いていった。

「藍い夜に君のことを想っては君の言葉を繰り返す。今日も明日も明後日も……」

張りつめた空間の中に淡い光を灯すように眩く Vo. ゆりえ。心地いい静けさから「藍ノ夜—アオノヨル—」が演奏される。曲中ゆりえは、切なさを感じさせながらも力強く歌い上げ、繋がりを意識する



ように手を結ぶ仕草を見せる。今回のライブのテーマでもある繋がり。それを観客に伝えようと表情豊かに歌う姿に、観客たちは魅了されていた。

曲が終わると大きな歓声があがる。嬉しそうな、照れくさそうな笑いを浮かべるメンバー。MCでは「今日の雨はこの曲の為に降った。」とゆりえが語り、「雨降—あめふり—」が演奏され



た。頹廃的な雰囲気  
に感情を吐き出すよ  
うに、激しく頭を揺  
らし、がむしゃらに  
演奏するメンバー。  
奏でる激しい音の洪  
水に、緑の照明がよ  
り一層、曲の雰囲気  
を引き立てる。普段  
とはひと味違った迫

力に、観客たちは息を吞んでモノオトの作り出す世界にのめり込む。

そのまま雰囲気はガラリと変わり、「羽根一はね」へ。ゆりかご  
の中にいるかのようなゆったりとした懐かしい気持ちにさせてく  
れる曲だ。温かな日の光を思わせる照明の中、手を高く掲げなが  
ら歌いあげるゆりえ。今回初の試みとなる、コーラスではGt. 剛  
志、Dr. 康平が活躍。二人の高音のコーラスがゆりえの声と重な  
り、美しい調和を生み出し、観客たちはうっとりと聞き惚れていた。  
Ba. 将志、康平、剛志、それぞれが見つめあい、微笑みながら息の合っ  
た演奏を魅せる場面もあった。心地よい三拍子のリズムに人々は体  
を揺らし、観客、メンバーともに会場全体が朗らかな雰囲気に包ま  
れ、曲の終わりには惜しみない拍手が送られた。

その後「雷雲—らいうん—」が始まると、また会場を包む空気が一変する。激しい雷の中を踊る踊り子のように体を揺らすゆりえと、空間を切り裂くような鋭い剛志のギターと、雷鳴のように激しく腕と体を振る康平のドラム、激しいポジションの移動にもクールに対応する将志、情緒溢れるメロディと轟く雷のような照明が、題名通り雷雲の中に巻き込まれたような感覚に陥らせる。圧倒的なパフォーマンスが生み出す空間に気圧されたのか、食い入るようにステージを見つめる観客も少なくなく、会場は大いに盛り上がりを見せた。



別々の曲風を続けて三曲演奏し終わると、本日二度目のMC。「藍糸はみんなのこと。運命の赤い糸のようにみんなと繋がってるよって意味です。……私めっちゃセンス良い(笑)」と語り笑顔を見せるゆりえ。親しみやすい和らいだ空間に、会場からは拍手と声援が送られ、それに笑顔で答えるメンバーた



ち。メンバーと観客の距離がぐっと縮まる様子が見受けられた。「今ここは夜。モノオトの世界です。」この会場内の空間が特別なものであるとゆりえは語り、この場にいる全員が同じ空間に存在し、同じ世界を作っているのだと意識を共有させた。

一呼吸置き、「ゆったりとした気持ちで聞いてください。」と言うと、アコースティック Ver. へと姿を変えたモノオトを披露した。アコースティック Ver. では、ドラムはカホン、ギターはアコースティックギターを使用する。



アコースティック楽曲は「落陽一らくよう」。切なげな歌詞と優しく語りかけるように会場を広く見つめて歌う柔らかなゆりえの声は、観客たちを幼い頃見た夕陽のような懐かしくもあり、悲しくもある気持ちにさせ、心を揺さぶられる。剛志が奏でる繊細なギ



ターの響きと、夕陽をイメージしたオレンジの照明が、よりこの曲の魅力を引き立て、ノスタルジックな空間を作り上げた。まるで時間が止まったような雰囲気包まれる会場はモノオトの奏でる音楽だけが進んでいき、誰もがこの心地よい空間を終わらせたくない、と感じた事だろう。



しっとりとした空気も一変。ゆりえのリードで観客に手拍子を仰ぎ、陽気なリズムの「模様一もよう」が演奏される。小気味のいいリズム。印象的なメロディ。手拍子とともに頭を振る観客。まるで自分たちがモノオトのメンバーの一員になったかのようにも感じられる。そ





んな観客の様子にメンバーも満足げに微笑み、会場全体が一体となって「模様—もよう—」を作り上げた瞬間だった。

演奏が終わるとMCが入り、「手拍子ありがとう。やってくれなかったらどうしようかと思った(笑)」とゆりえが飛び切りの笑顔で語る。その姿に温かな拍手が惜しみなく送られる。今回のワンマンライブには不安もあったようだが、それを吹き飛ばすような温かな会場の雰囲気

に安堵したようだった。

リズムカルなギターで始まったアコースティック三曲目「金魚—きんぎょ—」。軽快なリズムと、和を感じさせる妖艶なメロディを体で感じながら、水面を泳ぐ金魚のように体をゆらめかせて歌うゆりえ。その姿につられて同じように体を揺らす観客と、その様子を見たメンバーは頭を振りながら楽しそうに笑顔で演奏していた。観客とアーティストという枠組みを超えて、全員が全身を使ってモノオトの音楽を楽しんでいた。

そのまま次の曲「距離—きより—」へ。まだ前曲の余韻の残る会場に、

静かな剛志のギターとゆりえの声が澄み渡る。切ない歌詞が張り裂けそうな空間を作り、手を伸ばして届かない気持ちを掴むような仕草をするゆりえに、会場全体が胸を締め付けられるような気持ちなり、切ない表情で熱心に聞き入っている様子が見受けられた。曲が後半に差し掛かると、康平はカホンからドラムへと楽器を変え、ダイナミックなプレイで静かなバラードを壮大に仕上げ、場内を大いに沸かせた。

アコースティックライブも終わりを迎えると、本日三回目のMCに。この日発売になったCDについて触れ、初めてその全貌を明かした。1枚目は「藍ノ夜—アオノヨルー」、「雨降—あめふり—」、アコースティック Ver. の「夜半—よわ—」の全3曲を収録。





2枚目は「娯楽一ごらく一」、  
「浮事一うわごと一」、ア  
コースティック Ver. の「夢  
現一ゆめうつつ一」の全3  
曲を収録している。

会場にはざわめきが広がり、  
早速購入しようと相談する声  
が多く聞こえた。

「歌い続けてモノオトの空間を伝えたい。夢を追うのは怖いけど、  
聞いてくれるみんながいるから歌い続ける。」感慨深げに言葉を詰  
まらせながらゆりえが言い、その様子をメンバーが微笑ましく見つめ、  
その様子を見た観客から送られる温かな拍手とともにライブは終盤へ。

MC の後は、終わりまで駆け足。  
「朧月一おぼろづき一」、「戯画一カリ  
カチュア一」、「娯楽一ごらく一」、「夜  
半一よわ一」が4曲続けて演奏される。  
「朧月一おぼろづき一」では、メン  
バー全員が体を大きく揺さぶりながら、  
込み上げた気持ちを吐き出すよ







うに渾身の力を込めて演奏。ここでもゆりえは未来をかざすように高く手を掲げる。メンバーそれぞれが時折見つめあいながら微笑むなど、モノオトのメンバーの絆が垣間見え、その様子に観客たちもメンバーに合わせて頭を揺らし、絆を会場全体に繋げていった。

その後すぐに「戯画—カリカチュア—」。将志の魅せる華麗なベースの指捌きに観客の視線は釘付け。思わず声援があがる。複雑で独特なリズムに合わせて頭を振るメンバーに応えるように、会場内でもダンスを踊るような観客の姿が見られ、モノオトの世界を体現していた。終焉に向かう会場内のボルテージはとどまることを知らず、その雰囲気にもメンバーさえも呑み込まれ、演奏にも更に熱が入り、わき上がる感情を見せていた。



「娛樂一ごらく一」では、転がるようなメロディに癖になるリズムが、派手な赤の照明と相まってアンダーグラウンドな雰囲気を作り出した。大人の遊戯場とでもいった会場の空気に妖艶な表情を見せながらも、時折跳ねるように体を動かすゆりえに観客はその姿を追い続ける様子が見られた。のりのいいリズムに思わず手拍子が起こり、その手拍子のリズムに乗りながらメンバーは嬉しそうに笑顔で演奏。この日何度も感じたモノ

ノオトと観客で曲を作り上げていく共有感に興奮を抑えきれない。

そして「夜半一よわ一」。世界が開けたような明るい照明の中で、すべてを出し切るように、大きく体を使い手を高く掲げながら歌うゆりえ。歌を口ずさみながら体や頭を大きく振り、目で互いに合図を送り合って微笑む将志、剛志、康平。会場では前曲に続き手拍子が絶えず、高まった感情が会場内を渦巻くような熱気が肌で感じられた。

演奏が終わるとメンバーは捌け、間髪入れずに手拍子とともに熱いアンコールの声。会場内の全員がまだ宴を終わらせたくないようだ。



拍手の中ステージに戻ってきたメンバーは、バンドのロゴをモチーフにした揃いのバンドTシャツに身を包み、「可愛いでしょ。」と得意げな笑みを浮かべていた。

ここでゆりえが重大発表。なんと、第2回目のワンマンライブが決定したのである。7月6日に吉祥寺 SHUFFLE で行うとのこと（詳細は告知ページに記載しています）。

「7月6日は七夕の前日です。……ということは？」マイクを会場に向けて答えを煽るゆりえ。その後ろでは康平がそわそわと落ち着きのない様子が目立つ。その様子を観客たちは楽しそうに見つめていると「(こーちゃんの誕生日って言って!)」とゆりえが促すように囁き、場内の笑いを誘う場面もあった。

「色々な人とステージが作れて嬉しい。たくさんの人に支えられていると実感します。やらなきゃいけない、経験しなきゃ





いけないことはたくさんあって、それによって迷惑かけたりしたけど、見捨てないで聞いてくれてる人がいてくれて嬉しい。ありがとう。それしか言えないけど本当に感謝してます。その分、ライブで伝えたい。そういうことを伝えられる場所にしたい。」



身振り手振りを交えながらゆりえが心情を語り、会場からは割れんばかりの拍手が起こる。

こうしてアンコールが始まった。1曲目は「モノオトとともに変わっていく未完成な曲」とゆりえが称したタイトル未定の曲。アップテンポで迫ってくるようなサウンドに乗せた、たくさんの気持ちをぶつけるような、心に直接訴えかけるような曲。拳をあげて力いっぱい歌うゆりえと、互いに目を合わせ笑いあう剛志と将志、楽しげに笑顔でドラムを叩く康平と、それぞれの気持ちが伺える表情を見せた。

そして、最後の曲は定番曲「侏楽—いつらく—」。耳に残る特徴的なメロディと独特のリズムが癖になる。観客の中にはゆりえに合わせて口ずさむ者も。真っ赤に染められたステージをいっぱい使って全身で表現するゆりえ。他のメンバーも負けじと迫力のパフォーマンスを見せ、モノオトメンバー全員がこれまでに培ってきたものを、全身全霊で表現する姿は見る者を圧倒させた。見ていた誰の胸

にも深く、深く残るパフォーマンスになっただろう。その証拠に、曲の終わりには大きな歓声と会場いっぱいの拍手が起こった。

最後に相応しく高くギターを掲げる剛志。割れんばかりの拍手の中、メンバーはステージを降りる。

一夜の夢のように長いようで短い宴が幕を閉じた。

集大成でもありながら、その中で新しい姿を見せてくれたモノオト。彼らはこれからも進化を続ける。今後彼らはどのような軌跡を歩むのだろうか。彼らの作る未来にこれからも目が離せない。









(康平) ワンマンライブ  
お疲れさまでしたー！



(ゆりえ) 来てくれた  
みなさんありがとう  
ございました！



(将志 & 剛志)  
お疲れさまでしたー！！

ワンマンライブ『藍糸ーアオイトー』を終えて  
ラジオト第11回目を収録中のモノオトさんに、突撃取材しました！



## ワンマンライブ終えて

(康平) 本当に楽しかった。

(一同) 本当に楽しかったねー！

(将志) それ以外の何ものでもないね。

(一同) それに尽きるね！

(将志) それ以外で言うとお腹が減ったとか(笑)

(ゆりえ) ドタバタしすぎて食べ忘れたね(笑)



# ワンマンライブ『藍糸ーアオイトー』を終えて

この日は会場で New シングル

「娛樂ーごらくー」「藍ノ夜ーアオノヨル」と

第2回ワンマンライブのチケットが発売されました

(康平) たくさん  
CDとチケットを買って  
いただいて……



(一同)  
ありがとうございます！  
ございます！

(康平) 次は、7月6日にワンマンライブを  
行います！

(剛志) もうすでに次のワンマンライブのチケッ  
トをたくさん買って頂いて……

(ゆりえ) ありがたいですね！！

(康平) それまでは、新譜2枚を聴いて頂いて……

(将志) ライブにも遊びに来て頂いて、7月に進化したモノオトを……

(ゆりえ) 進化したモノオトを？

(将志) 見にきて頂きたいですね！



(一同) ですね！！(笑)

# ワンマンライブ『藍糸ーアオイトー』を終えて

## 最後にライブを振り返って

(一同) めっちゃ短かった！！

(康平) またやりたいねー

(一同) やるから！（笑）

(剛志) 終わるな終わるな終わるなって思っ  
てたら音が出なくなった・・・

(一同)（笑）

(将志) 強制終了（笑）

(康平) 全部ひっくるめて楽しかった！

(ゆりえ) みんなが笑顔でいてくれて、うれしくて泣きそうになった。



(ゆりえ)  
すごく短く  
感じたー



(将志) 楽しすぎて、満足感が大きかった。

(剛志) 新曲がやばかった！ゆりえさんが  
色々しゃべっていて、じーんときて泣きそ  
うになった。めっちゃこらえた（笑）

(ゆりえ) ぜひ次ももっともっと楽しいス  
テージが出来るよう成長していると思いま  
すので、楽しみにしててください。

(一同) ありがとうございました！！





ゆりえの  
**戯画**  
カリカチュア

夕方の空



# ワンマンライブ開催決定

七月六日 金曜日 吉祥寺 SHUFFLE

OPEN 18:30 START 19:00

詳細後日発表





## 娛樂 -ごらく-

1. 娛樂 -ごらく-
2. 浮事 -うわごと-
3. 夢現 -ゆめうつつ- Acoustic ver

# 新譜情報

ライブ会場にて  
好評発売中！ 各 500 円



## 藍ノ夜 -アオノヨル-

1. 藍ノ夜 -アオノヨル-
2. 雨降 -あめふり-
3. 夜半 -よわ- Acoustic ver



## 朧月 -おぼろづき-

価格 ¥ 500 (tax in) TNSR-5057

発売：(株) トライスクル エンタテインメントレーベル: シブヤレコード

**残り僅か!**  
詳しくはオフィシャル Web サイトへ



---

#### 著作権について

この雑誌「モノオトシンドローム」の著作権はモノオトが保有しております。本誌を閲覧されるお客様は、個人的に利用される場合に限り、公衆回線／専用回線を通して、本誌をお客様の端末に表示すること、複製保存することが認められております。

下記の行為は、著作権及び著作者人格権侵害となるため、禁止します。

- (1) 本誌 PDF データの全部または一部を修正、変更、翻案、編集、切除等、改変する行為
- (2) 本誌 PDF データの全部または一部を解析したり、派生物を制作する行為
- (3) 本誌 PDF データを第三者に複製、複写、頒布、貸与、譲渡、自動公衆送信する行為